※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２９

令和８年度　音楽科

教科	芸術	科目	(学)音楽演習３	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	Tutti２＋（教育出版）　音楽通論（教育芸術社） music　of　basic（教育芸術社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・今まで体験してきた音楽活動をもとに、より幅広い体験を積み重ねていきましょう。
より深い理解のために、自ら探求していきましょう。
・創意工夫し表現する力は、実際に表現してみることが必要です。培った基礎技能を生かして、実際に披露してください。なんとなく鑑賞するのではなく、自分の引き出しの中にある根拠をもって評価しながら、深く味わって聴くことができると楽しさが増します。
・すべての活動に主体的・協働的に取り組み、より豊かな生活を目指しましょう。

2　学習の到達目標

・幅広い音楽活動を通じて、生活や社会の中の音楽を音楽文化だけでなく、他の分野にも興味関心を持ち、音楽に関わる資質、能力を育成する。
・音楽構造や　それらの文化的歴史的背景、音楽の多様性に興味を持ち、理解を深め、自分なりに工夫した音楽表現を身につける。そのための技能を育成する。
・いろいろな音楽に対して、根拠をもって評価しながら、深く味わって聴くことができる態度と能力を育成する。
・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育て、感性を高める。日本だけでなく、世界中の音楽文化に親しむ。生活や社会をより良く豊かなものにする感性と態度を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的歴史的廃棄などとの関わり、および音楽の多様性について理解している。 ・個性豊かな音楽表現をするために、創意工夫を生かした音楽表現を意識し、必要な技能を身につけている。それらを歌唱　器楽　鑑賞　捜索で表している。	・音楽を形作っている要素やそれらの関連を知覚し、それらの働きを感受している。 ・それらの働きと、関わりについて考える。 ・創意工夫をもって、自身の表現意図を表すことができる。 ・根拠に基づいて、音楽の美しさや独自性を自ら味わって鑑賞している。	・音楽活動に主体的・協働的に活動に取り組んでいる。 ・音楽の諸活動に、目標をもって、目標達成のための取り組みを継続している。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期から3学期	曲に応じた発声や表現で歌おう。	・曲にふさわしい発声や発音体の使い方などに気をつけて表現を工夫して歌う。 ・お互いに聞きあい曲想と音楽の構造いろいろな関りや表現上の効果を理解する。 ・合唱や指揮に挑戦しよう。	a:曲の特性にあった歌い方を自分で考え理解して歌おうとしている。 b:音楽の要素を感知しそれらの働きを理解する。その上でどのように表現するか自分の意図を持っている。 c:曲の様々な要素によって生み出される表現に関心を持ち主体的に学習活動に取り組んでいる。	観察 聴取	観察 聴取 ト	観察 聴取 振り返り シート
	リズムアンサンブルを楽しもう。	・楽譜に書かれているリズムを基本にそのかかわりによって表現される効果を理解する。 ・楽譜その他の音色　双方を工夫し、他者を意識して個性豊かに創意工夫して演奏する。	a:楽譜をもとに曲想と楽器の音色、奏法との関わりを理解している。それらを演奏するための理論を理解し表現できる。 b:音楽の諸要素を知覚しそれらの働きを理解する。独自の表現意図を持ち表現しようとする。 c:音楽の諸要素とのかかわりと表現方法やアンサンブルに興味を持ち、主体的協働的に活動に取り組もうとしている。	観察 聴取	観察 聴取 発表	観察 聴取
	変奏や編曲に挑戦しよう。	・身近なメロディをもとに音楽の要素を工夫し曲の表情や雰囲気を変える。 ・メロディに音を加え和声も意識しコードネームを意識する。 ・変奏や編曲に必要な理論の基礎を、身につける。	a：創作をするために必要な基礎を理解し変奏や編曲をする技能を身につけている。 ｂ：音楽の諸要素を理解しどのように創作するか独自の表現意図をもっている。 ｃ：変奏　編曲に興味を持ち主体的に創作活動に取り組む。	観察 聴取	観察 聴取	観察 聴取
	ギターを演奏し、他の楽器とアンサンブルしよう。	・ギターの音色や表現の特徴を味わう。 ・いくつかの奏法を身につけ表現の幅を広げる。 ・自分で音色や表現を工夫して演奏する。 ・アンサンブルで自分のパートの役割を意識しより良い表現につなげる。	a：・曲想とギターの音色　奏法の関わりや表現上の効果を理解し、その表現のための技能を身につけている。 b：音楽の諸要素を感じ、それらの働きを意識して独自の表現意図を持っている。 c：関心を持ち、主体的　協働的に取り組もうとしている。	観察 聴取	観察 聴取	観察 振返り シート

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
	日本の伝統芸能・郷土芸能について知ろう。三線を演奏しよう。	・謡を体験したり日本の芸能を鑑賞したり調べたりしながらそれぞれの特徴を理解し魅力を味わう。 ・三線を演奏して、文化や歴史の背景も含め沖縄の音階、音色や表現を味わおう。	:表現上の効果について理解する。曲にふさわしい発声　言葉体の使い方等技能を身につけ表現している。 b:謡の音楽的な要素を感じて理解しどのように歌うかイメージして歌おうとしている。 c:謡の文化的歴史的背景や表現上の効果、言葉の特性などに関心を持ち主体的協働的に学習活動に取り組もうとしている。	観察 聴取 レポート	観察 聴取	観察 レポート
	日本や諸外国の歌曲に親しもう	・いろいろな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解する。 ・曲にふさわしい発声や言葉の発音体の使い方などのギンプを身につけよう。・表現を工夫しよう。	a:曲の特性にあった歌い方を自分で考え理解して歌おうとしている。 b:曲の特徴や演奏に対する評価をその根拠とともに考え味わって鑑賞する。 c:様々な国の歌曲の相違点、共通点を意識して根拠をもって、表現しようと主体的に取り組んでいる。	観察 聴取	観察 聴取	観察 聴取
	映画やオペラを鑑賞し、歌ってみよう。	・音楽と映像との結びつきや、心情がどのように表現されているかを考えながら鑑賞し、実際に歌ってみよう。	a:音楽の構造、特徴　他の芸術とのかかわりについて理解を深めている。 b:自分の中で曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽を深く味わって聴いている。 C：曲想やテーマに文化的歴史的その他とのかかわりに関心を持ち取り組んでいる。	観察 聴取	観察 聴取	観察 聴取 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度